

サーキット・ライダー 2005年 3月号

復活の意味を探る

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

ヨハネ 11：25－27.

皆さんはご自分の、また近しい人の死を見つめている、或いは見つめられた事がおありでしょうか。私は時折、自分はどのように死ぬのだろうか、死ぬとは一体どのような事なのだろうかと考えます。また仕事柄多くの方の臨終に立ち会いますが、そのような折に亡くなった方の家族や友人に残したものの大きさ、愛、楽しい思い出、悲しい思い出などを窺い知り、さて「自分はどうかだろうか？」と問い掛けます。勿論、今の自分は人生の半ばですが、果たして神の為、世の為、人の為何かしているだろうか、有意義に人生を送っているだろうか・・・と言う具合に。

死と向き合う事は人間が人間として歩み始めた時から今に至るまでずっと我々に与えられている主題です。人間には死を克服する力はありません。偉人でも私のような凡人でも平等に死は与えられています。しかしそれに向き合っている人はあまり多くないようです。最近、知人の奥さんが亡くなりました。40を過ぎたばかりの方で中学生と小学生のお子さんご主人を残して先立ちました。私は奥さんが闘病生活を送られていた日々、その最終的局面を迎える頃、その知人に幾度か電話し、会って彼に心の準備を促し、来るべき日に備えるよう話したいと思い、会う約束をしました。しかし彼はあまりにも悲しい現実、私と2度ほど会うはずだったのですが、どちらも直前にキャンセルしてきました。彼と会ったのは奥さんが「亡くなった」と連絡を受けた後、葬儀の時でした。ガックリと力を落とした彼と会った時、私の中で奥さんの生前にもう少し力になれたのではという後悔の念が起きました。勿論、私自身は無力な人間ですから、できることは限られていますが、私達の信じているイエス・キリストの力は人智を超えたものであり、その愛、癒しの力は必ず「悲しみを喜びに変え、嘆きを踊りに変えてくださる」(詩篇30篇)ので「必ず彼を慰めて下さる、彼に死と向い合う勇気を与えて下さったのに」と思わずにはいられませんでした。

昨今、日本でもアメリカ並に？命の大切さを思わない犯罪が増えていることに多くの方が心を痛め、訝しがられていると思います。とりわけこれから何十年という人生があったであろう幼い子の命が奪われたり、何も関係の無い人の命を逆恨みで奪うなど、許しがたい犯罪が増えています。これは今更ながらに物質的豊かさばかりを追い求めてきて、心の豊かさを見つめずきた人間社会の問題と言えますが、その根底には死を見つめずにごろごりしてきたことがあるように思います。人の命は一つ。誰にもそれは自由にできない。厳粛にその事実を受け止めた時、人は畏怖の念にかられます。畏怖の念が無い時、人は自己中心になり、自分さえ良ければ、自分の欲望され満たせば他者はどうでも構わなくなり、殺人でさえ無分別に犯してしまいます。死を見つめることは命の大切さを知る事でもあるのです。

さてイエスの復活とはどのような意味があるのでしょうか？人間には超えられない死。その死をイエスは復活という形で克服された。信じない方には無意味ですが、信じる者にとっては、これは神の力が人智を超えたものであり、死さえもその前に無力になることを強く語っています。またイエスの復活は私達に、現代人の多くが陥っている、「物が消滅してしまったら全てそれで終わり」という虚無的唯物論が意味の無いものであること、また「死をもって人は終わりではない」ということを教えています。

もし人の一生が「死んだら全て消滅してしまう」ものであったら、それはまるで皆さんが使っている箸とかペンとか紙とか、そのような物と同じになってしまいます。使い終わったら捨てて新しいのに代える・・・ような価値観で人の命、一生を計っていいものか、考えてみればその空しさが解ります。私達はなるほど自分の命は自分ではどうすることもできませんが、死んだらそれで終わりではない。死をも無意味にしてしまう神を信じ、魂の救いを信じる。魂の安らぎを想う。それもこれもイエスの復活があったからこそです。復活は希望であり平安です。死を見つめ、その先に待つ永遠の命、神の国を信じる力、それが復活です。だからこそ今を充実したものとできる。今年も皆様と共に復活祭をお祝いできる事を心より嬉しく思います。

吉松 純

*礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。

*祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

*聖日予定：

3月 6日：自由祈禱会、Jr.教会：歌の練習とユーリズミー、聖餐式礼拝。

13日：自由祈禱会、Jr.教会：クッキング、礼拝、司会：荒美俊三兄。

20日：自由祈禱会、Jr.教会：棕櫚（しゅろ）を使った工作とユーリズミー、棕櫚の聖日礼拝、
司会：荒美和子姉。

27日：自由祈禱会、Jr.教会：たまご色つけ、復活祭礼拝。司会：荒美俊三兄。礼拝後、持ち寄り

で

祝会

4月 3日：自由祈禱会、Jr.教会、聖餐式礼拝。

*集会、行事予定と報告

3日（木）午後6時、苦難節（Lent）特別集会（英語）。パンとスープ、聖研の夕べ。ゲスト：CUMAC・ECHO 主事、パット・ブリューガー牧師。CUMAC・ECHO はパターンソンで貧しい人たちの更正を援助している社会福祉団体です。

10日（木）午後6時より、パンとスープの夕べ。ゲスト：ベス・グローバー牧師。グローバー牧師は病院チャプレンであり、チャプレン養成資格を持つ教育者でもあります。病院での介護、心のケアについてお話していただきます。

17日（木）午後6時、パンとスープの夕べ。ゲスト：ビル・アルバータス牧師。アルバータス牧師は牧会カウンセラーで多くの人のカウンセリングをしてこられました。カウンセラーの立場から苦難、悲しみを語って下さいます。

18日（金）午後7時30分より、聖書研究会、日本語オフィス。旧約聖書、エステル記。

24日（木）午後7時30分より、聖木曜日礼拝（英語）。最後の晩餐の劇化再現礼拝。ウエスト・ウッド合同メソジスト教会にて。

25日（金）午後6時より、最後の晩餐（過ぎ越しの食事）会とグッド・フライデー礼拝（英語）。

*今月はグッドフライデー礼拝がありますので牧師館での聖書の学びはお休みです。

27日（日）復活祭礼拝。午前10時（英語）。午後4時（日本語）日本語礼拝後、持ち寄り復活祭の祝会をします。子供達にはエッグ・ハントもあります。どうぞお出かけ下さい。

*御協力お願い致します。献金の宛名は UMC-JA でお願ひします。

*インドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金を始めました。現在、インドの教会及び被害者への直接送金及び被害の最も大きかったインドネシアへの送金を計画しています。ご協力お願いします。

*新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願いします。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）に送ります。JOCSは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をHOPEとしてください。

*一昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉（201）802-1769 takae17A@AOL.com

Happy Easter!